

企業支援 ウォッチ

株式会社栄宝

ケミカルライトの技術で イノシシを撃退！

福岡県中小企業団体中央会は、異分野の中小企業者がお互いの強みを活かして、新商品・新サービスの開発・事業化を行う「新連携」の支援を行っています。

今回は、「イノシシの撃退用忌避材（嗅覚的防除）の事業化」で九州経済産業局より認定を受けた連携体を代表しコア企業である株式会社栄宝（以下、「栄宝」）の加藤文一社長と加藤秀徳常務にお話を伺いました。

鳥獣被害の現状

平成27年に九州農政局がまとめた資料によると、野生鳥獣による全国の農産物被害額は平成25年度において199億円、九州の農作物被害額は32億円に上ります。九州の農作物被害額のうち、イノシシによる被害額は16億円で、被害額全体の5割を占めます。収穫時に鳥獣被害を受けることは、営農意欲の減退、耕作放棄地の増加等の要因となり被害金額以上に農山漁村に深刻な影響を与えられます。

これまで、電気ショック付の柵等の防除製品やハンターによる銃殺といった対策が取られ一定の効果を挙がっているものの、誤った使用方法による事故の頻発や狩猟免許所持者の高齢化による駆除の担い手の減少、加えて、農林水産漁業者の高齢化も相まって、より簡易な方法での害獣駆除対策が求められています。

このような中、法政大学デザイン工学部の大島礼治教授の指導と指示を仰ぎながら、栄宝、(有)林農機商会、本会が連携し、新連携の認定を受けたのが当イノシシ撃退用忌避材です。



写真1：常務の秀徳氏と社長の文一氏

当製品の特長

当製品はプラスチック製のスティックの中に希釈液と忌避成分を封入したガラスアンプルから成り、スティックを折り、中のガラスアンプルを割ってスティック内で混合、特殊な透過膜等を通しイノシシが本能的に嫌う臭い成分を放出するというものです。スティックを折るまでは成分放出がなく流通段階でのロスがないこと、人体と環境に安全な食品添加物由来の薬剤を使用していること等が特徴です。法政大学の島教授が8年間かけて研究してきた技術が基盤となっています。

連携メンバーの強み

コア企業たる栄宝の強みは、約25年に亘るケミカルライト製造で培ったガラスアンプルの製造技術です。薄くて丈夫でありながら、破割するときには割れやすいというガラスアンプルを製造する技術力を評価され、ケミカルライトや忌避材以外の分野からも引き合いを受けています。

連携企業である(有)林農機商会は岐阜県恵那市に店舗を構える創業50年の農業用機械器具卸売業者で全国に販売網を持ちます。イノシシの行動特性等の情報や設置に係るノウハウを持ち、フィールドテストを栄宝と共同で実施、効果の検証や改善箇所の検討をともに進めています。

認定をとるきっかけ

(公財)福岡県中小企業振興センターの販路開拓アドバイザーから中小機構九州の植野アドバイザーを紹介いただき、新連携認定制度を教えていただいたのが始まりです。法政大学の島教授からの後押しをいただき、植野アドバイザーの熱意に感化され挑戦することにしました。



写真2：左から加藤社長、植野アドバイザー（中小機構）フィールドテストに協力いただいた杉本アドバイザー（同）

認定申請を通して

常務の秀徳氏は「苦労した点は特にありません。申請書作成やフィールドテストを通し、日本の農業の現状を学ぶ機会となりました。また、プレゼンの経験も少なく、不安でしたがやってみると楽しく、認定を取れるか否かに関わらず、認定申請を通して成長させてもらったと感謝しています。」と語られました。

認定をとってよかった点を伺うと

「フィールドテストをする際、スムーズに話が進むようになりました。国の認定ということで信用も高まると感じています。」と加藤社長。

認定後の現在の事業展開について

現在の事業状況と今後の展開について伺いました。

「県内の市町村ほか、岐阜県、佐賀県、熊本県、長崎県、宮崎県等でフィールドテストを行ない、イノシシに関しては概ねよい結果を得ています。

動物相手なので、テストではまれに上手くいかないこともあり、失敗したという結果を聞き落ち込んだこともあります。しかし、大半は成功したという喜びの声であり、早く製品化してほしいという声を励みに薬剤の濃度や設置方法の改良に励んでいます。」

フィールドテストでは、設置の際に蜂やマムシに刺されそうになったり、イノシシに追い掛け回されたりと苦労も絶えないそうですが、これまで

九州を中心に70か所以上でフィールドテストを重ねました。中には、農業者からの情報を知った国指定名勝の庭園からの要請もあり、庭園を守るため防除材を設置し文化遺産の保護にも寄与しています。

連携体では今年4月からの本格販売を目指して蓄積したテスト結果の検証と販売促進のためのPR媒体の製作に加え、イノシシ同様に相談の多い、シカ用の忌避材の研究開発に取り組んでいます。



写真3：忌避材のスティックとスティック内のガラスサンプルを鉛筆と比較



写真4：設置風景

企業概要

企業名：株式会社栄宝

所在地：福岡県遠賀郡岡垣町三吉234-1

TEL：093-283-2257

URL：<http://www.eihou-kilala.jp>